

苗曲がりが少なくサツマイモ挿苗機植付に適した育苗法	分類	普及情報
〔要約〕種いも伏せ込みによるサツマイモ育苗では，種いもの頂部を切断し，縦に伏せ込むことにより苗揃いが良くなる。また，地表面かん水，苗床端部の倒伏防止対策を組み合わせることにより，苗曲がりが少なくサツマイモ挿苗機植付に適した苗生産が可能である。		
大隅支場農機研究室	連絡先	0994-62-2001

〔背景・ねらい〕

近年，斜め植えや船底植えが可能な挿苗機が開発・実用化され，230台程度が現地で稼働している。しかし，実用化されている挿苗機の作業性能は，苗の性状（曲がり，長さ等）に左右されることから，機械に適した苗生産技術の開発が重要な課題である。そこで，種いも伏せ込み方法と苗床構造等について検討し，挿苗機適応性の高い苗生産技術の確立を図る。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 種いも伏せ込みは疎植にすると苗が倒伏し，曲がり苗，葉柄が一方方向に出た苗が多く発生するのでやや密植にする（「コガネセンガン」では25個/m²：萌芽性により若干変える）。
- 2 種いも頂部を切断し，縦（垂直方向）に伏せ込むことにより，萌芽揃いが4日程度早まり，苗性状の揃いも良い（表1，図1）。
- 3 かん水チューブ等による地表面かん水により，苗の倒伏による曲がり苗，葉柄が一方方向に出た苗の発生が少なくなり，挿苗機適応苗の割合が高まる（表2，図2）。
- 4 苗床側面に畔波シート等の倒伏防止対策を行うことで，苗曲がり約40度以上の曲がり苗の発生を防止でき，挿苗機適応苗の割合が高まる（表2，図3）。
- 5 苗基部曲がりの大きな苗は欠株の原因となるので，採苗時に曲がり部から切除する。また，挿苗機に適さない苗は採苗時に取り除き，枕地等の人力植えに使用する（図4）。
- 6 採苗後の苗取り置きは縦置きすると苗基部曲がりの原因となるため，横置きが望ましい（図5）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 普及対象地域は県内のサツマイモ栽培地域で，普及対象者はサツマイモ挿苗機利用農家であり，施肥量・温度管理等の育苗管理は慣行に準ずる。
- 2 植付苗長は船底植え仕様と斜め植え仕様があり，船底植え仕様では短挿し15cm，長挿し20cmが良い。斜め植え仕様が短挿し10cm，長挿し15cmである。機械に適応した苗長は茎長で船底植え仕様が短挿し18～23cm程度，長挿し23～30cm，斜め植え仕様が短挿し13～18cm程度，長挿しで18～25cm程度のため，採苗時に仕様ごとに苗長を調製する。
- 3 植付精度の安定化を図るため，畦幅75cm以上，畦高15～35cmの高畦で畦表面は凸凹がないよう仕上げる。
- 4 サツマイモ挿苗機は取り扱い方法を熟知し，畦幅，畦裾幅，ほ場傾斜，苗長さ等にあわせて機体を調整し，植付精度の安定化を図る。
- 5 機械用の苗を採苗する際は普通の手植え作業からすると手間がかかる。